

支援終了後も民医連職員ボランティア活動に取り組む

新潟・下越病院職員  
多賀城市で除去作業



ボランティア参加した皆さん(多賀城市震災ボランティアセンターで)

新潟民医連下越病院職員 6 人が、宮城県多賀城市で、ボランティア活動を行った際の活動報告が届きましたので紹介致します。

また、参加したいっす！

私は、東日本大震災から 1 ヶ月後の 4 月に、全日本民医連からの被災地支援要請で松島の支援に参加しましたが、あの時に目にした光景は一生忘れる事はないです。テレビで流れてくる映像である程度は頭の中で理解はしているつもりでいましたが、実際の被災された場所はとても筆舌に尽くせるような状態ではありませんでした。ただ、道路を一本挟んで右と左とでは目にする風景が全く違って、とても不思議な感覚でした。そして、こう強く思う様になりました。「おれは生きてるんじゃないかと、生かされてる。だったら何をすべきなのか」と。

松島支援の日程が終了し、もどかしい気持ちのまま新潟に帰って来ましたが、院内でボランティアの希望者を募ったところ、全日本の被災地支援に参加した経験を持つ ME 課職員と病棟看護師、ボランティア未経験の彼らの同僚、同じく、ボランティア未経験のリハビリ課職員の 5 名が手を挙げてくれ、私を含め 6 名で全日本の主導ではない、全く私的なボランティア活動をスタートさせる事が出来ました。支援先の選定についてはネットであちこち検索しましたが、偶然にも院内に七ヶ浜町出身の職員がいて、現地の話を聞かせてもらい、最終的に、近隣の多賀城市の震災ボランティアセンターの活動に参加する事にしました。ボランティアセンター経由の活動という事で当方の希望する作業が選べず、受け付け順で、被災されたお宅の庭に流入したヘド口の除去作業となりました。正直なところ、もっと、生活に困窮している地域をお手伝いしたかったです。(もっとも、ヘド口自体は臭いので除去してほしいというニーズはわかるんですが)ただ、今回初めてボランティア活動に参加した若い職員から「困っている人の力になれてよかったです！」と私が感じてしまった後ろ向きになりかけた気持ちを打ち消してしまう強い言葉をもらいました。それと「また、参加したいっす！」

今回のボランティア活動については、ボランティア保険の加入、現地までの高速道路の料金の免除の手続き等々については各方面のたくさんの方々から貴重なアドバイスをいただき、初めての作業もなんとか終わらせる事が出来ました。(元々、こういった面倒な手続き事をするのは苦手です)又、院所管理部からは全くの私的なボランティア活動にもかかわらず金銭面の補助制度を新設していただき、ネックだったガソリン代についても何とかする事が出来ました。(この新設された制度で今後の継続的な支援活動が可能になりました！)

私の所属する部署でも、他部署でも全くの個人で被災地に支援に行っている職員や、「チーム下越」という院内ボランティア組織で、料理上手を生かして昼ごはんカンパを行っている職員も大勢います。皆、自分でできるボランティア活動を行っています。被災された皆さんが 1 日でも早く復興する様に。また、行きますんで、全日本民医連のネットワークを生かして詳細な情報がありましたらって思ってます。(匿名希望さんより)

東日本大震災 被災者支援  
北海道民医連ニュース 2011.6.15

「生活ボランティア隊」先発調査レポート

今後、道民医連としてとりくむ「ボランティア隊」の先発調査として、9日、6医科注人の専務と道民医連事務局あわせて10人が気仙沼市に入り、一日かけて排水溝の泥出しや津波で半壊した家の掃除、ヘド口の除去作業をおこないました。以下、佐藤事務局長のレポートです。



**ほんとうにおかた**  
150センチほどの高さまで水が押し寄せたという高齢の女性は、かろうじて残った家の2階で生活しています。車は渡され1階はめちゃめちゃ状態。「しばらく何もする気にならなかったけど、ボランティアの方々が来て一生懸命片づけてくれるのを見て、少しずつ頑張ろうかなという気持ちが起きてきた。ほんとうにありがとうございます」と元気に話してくれました。



**泥まみれの家族の写真**  
家の周りを掃除している最中、壁にまみれた写真が一枚見つかりました。ずいぶん昔に撮った子どもさんの写真です。このお宅でも、思い出の品々がほとんど壊されてしまいました。  
私たちボランティアのできることは限られていますが、一つひとつ生きる力の手助けになっていることを実感します。作業をしている姿を見ていた近所の方から「うちもお願いしたい」と声がかかりました。

被災地では、まだまだボランティアの手を求めています。



ボランティアへの参加を呼びかけます

医療・介護支援チームの派遣は5月末で終了しましたが、道民医連としては7月から生活ボランティアを募り、被災地での活動を呼びかけます。詳細(期間・支援先・行程・費用など)は近日中にアナウンスします。